

熊本県熊本市

【計画期間 平成29年4月～34年3月】

- ・熊本城を礎に、城下町として発展。九州のほぼ中央に位置しており、戦前までは国の出先機関が置かれ、行政都市として栄えた。
- ・平成24年4月に政令指定都市に移行し、九州では福岡市、北九州市に次ぐ3番目の都市の規模になった。
- ・人口740,822人(平成27年国勢調査) 面積390.32Km²

【前計画の概要】

○熊本城の城下町エリアで広場の整備を行うとともに路面電車の利便性の向上に取り組むことで交流人口の増加、回遊性の向上を図る。(平成24年4月～29年3月)

【中心市街地の変化】

- 花畑地区広場整備事業で整備した広場の一部が供用開始され、物販、飲食や展示等のイベント実施により歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
- 路面電車の低床化や交通系ICカードの導入により利便性が向上し利用者が増えた。
- 新計画では、城下町エリアと熊本駅の二拠点を中心にエリア全体ににぎわいを広げる。

【目指す中心市街地像】

**地震からの創造的復興により
誰もが安心して暮らし働き、国内外からも多くの
人が訪れる、魅力あるくまもとの顔づくり**

【前計画目標】

目標	目標指標	基準値 (H22)	目標値 (H28)	最新値 (H27)
人々が活発に交流しにぎわうまち	商店街歩行者・自転車通行量	277,017人/日	310,000人/日	317,667人/日
城下町の魅力があふれるまち	熊本城入園者数	1,440,355人/年	2,000,000人/年	1,775,339人/年
誰もが気軽に訪れることができるまち	市電の利用者数	9,537,000人/年	10,525,000人/年	11,030,949人/年

【新計画目標】

目標	指標	現状値	目標値 (H33)
にぎわいあふれる城下町	熊本城公園(熊本城、城彩苑等)への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数	1,921,762人/年 (H28)	2,650,000人/年
安心してずっと暮らしたいまち	中心市街地内の居住人口	36,604人 (H28)	37,000人
誰もが訪れてみたくなるまち	熊本市内の宿泊客数	2,637,637人/年 (H27)	3,000,000人/年

にぎわいあふれる城下町

- 【主要事業】
- ・熊本城復旧整備事業
 - ・桜町地区再開発事業
 - ・シンボルプロムナード等整備事業
 - ・(仮称)熊本城ホール整備事業
 - ・城下町の風情を感じられる町並みづくり事業など

安心してずっと暮らしたいまち

- 【主要事業】
- ・桜町地区再開発事業(再掲)
 - ・あんしん住み替え相談窓口事業
 - ・街なか子育てひろば事業
 - ・企業立地(誘致)促進事業 など

誰もが訪れてみたくなるまち

- 【主要事業】
- ・桜町地区再開発事業(再掲)
 - ・(仮称)熊本城ホール整備事業(再掲)
 - ・JR熊本駅ビル整備事業 など

熊本市中心市街地活性化基本計画（熊本地区）の事業概要

にぎわいあふれる城下町

①熊本城復旧整備事業

天守閣の早期復旧を行い、市民の震災復興のシンボルとするとともに、復旧過程の段階的な公開を通して、新たな観光資源として活用する。

②桜町地区再開発事業

「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」をコンセプトに、バスターミナル、商業施設、ホテル、(仮称)熊本城ホール、駐車場、約160戸のマンションを整備する。

③シンボルプロムナード等整備事業

熊本城と中心商店街の回遊性を向上させるため「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」をコンセプトに、桜町地区と一体的に、シンボルプロムナードや広場といったオープンスペースを整備する。



④城下町の風情を感じられる町並みづくり事業

町並みガイドラインに基づき町屋等の保存活用を行うことで、城下町の風情を感じられる町並みづくりを進め、良好な景観形成の推進及び地域の住環境の向上を図る。

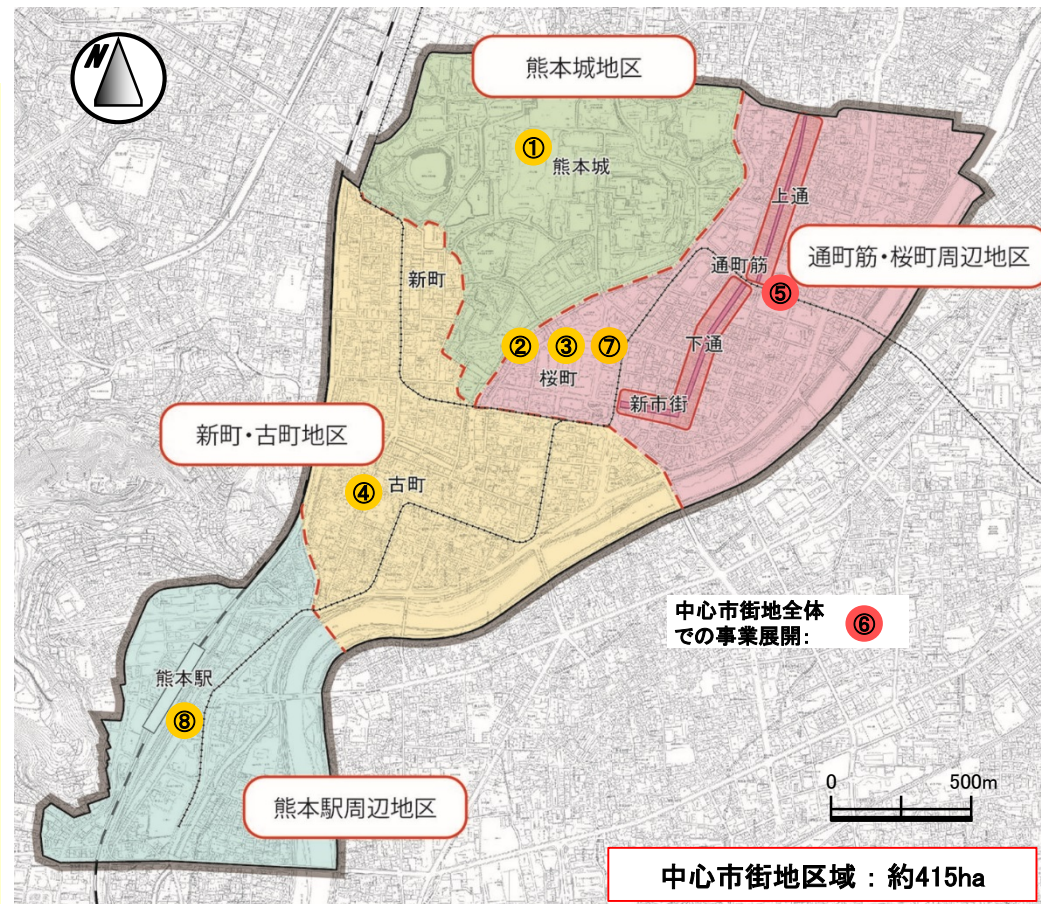
安心してずっと暮らしたいまち

⑤街なか子育てひろば事業

日祝日でも気軽に立ち寄り、子育てに関する相談や情報収集ができる「街なか子育てひろば」を開設し、ファミリー層のまちなか居住を促進する。

⑥企業立地(誘致)促進事業

市への立地を検討する事業者に、用地取得や新規雇用への補助を行うことで事務所の新設、増設を促進する。



誰もが訪れてみたくなるまち

⑦(仮称)熊本城ホール整備事業

桜町地区再開発事業と連携して、多目的に利用できるにぎわい交流施設を整備し、国内外からの交流人口の拡大を図る。

⑧JR熊本駅ビル整備事業

新幹線の停車する交通の要衝である熊本駅前に商業施設、シネマコンプレックス、ホテル等を整備する。